



freeでのMackerelの使い方



浅羽義之 Yoshiyuki Asaba

2015/5 ~ free

プロダクト基盤(SREなど)本部長とエンジニア新卒採用責任者をやっています

- RDBMSと自動化が大好き

☆ はじめる



会社設立 free

(2015年6月リリース)

開業 free

(2016年10月リリース)

5分: 会社設立用の書類を最短5分で作成

モバイル: スマホ完全対応で、どこでも会社設立

ワンストップ: 実印発注や銀行口座作成もできる

シェアNo.1

🔄 運営する



クラウド会計ソフト free

(2013年3月リリース)

自動: 銀行やカードの口座と連携し、人工知能で会計帳簿を作成

簡単: 簿記の用語を使わない画面設計で簡単に使える

最適化: 請求書発行や経費精算などの業務も最適化

実績: クラウド会計ソフトシェア No.1 で安心の実績

サポート: チャットによる迅速なサポートを提供

決算: 決算や個人事業主の申告まで自動で簡単に

シェアNo.1

↗ 育てる



クラウド給与計算ソフト free

(2014年5月リリース)

簡単: 知識がなくても1クリックで給与計算

勤怠: 勤怠管理も簡単に

オンライン: 給与明細はオンラインで配布

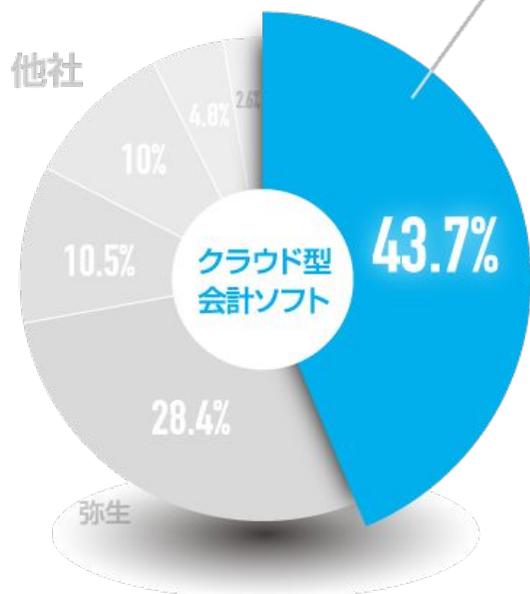
会計連動: 会計ソフトと完全データ連携

政府連携: 行政手続きもオンラインで完結

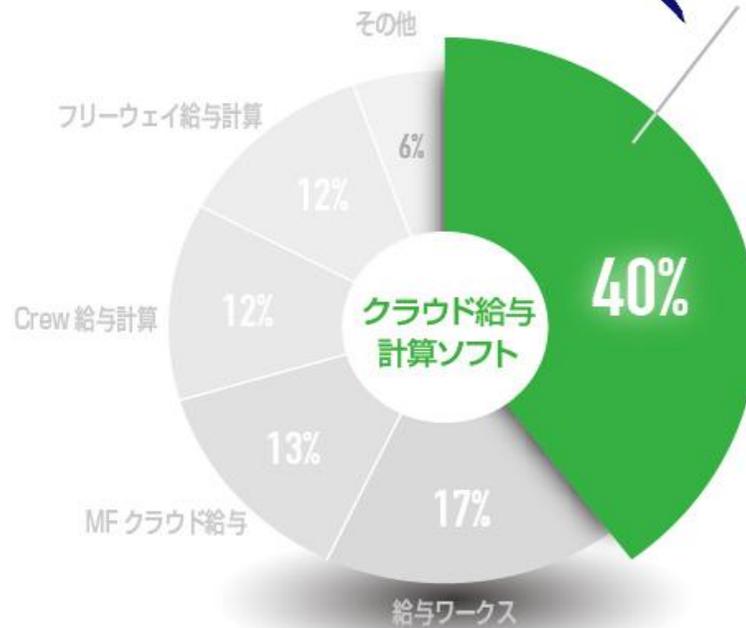
マイナンバー: マイナンバー管理も完全対応

有効事業所数は **80万事業所** を突破 会計・給与共に**トップシェア**

クラウド会計ソフト市場
マーケットシェア*
(法人・個人)



クラウド給与ソフト市場
マーケットシェア*



* デジタルインファクト調べ

*MM総研調べ



Mackerel導入前の話

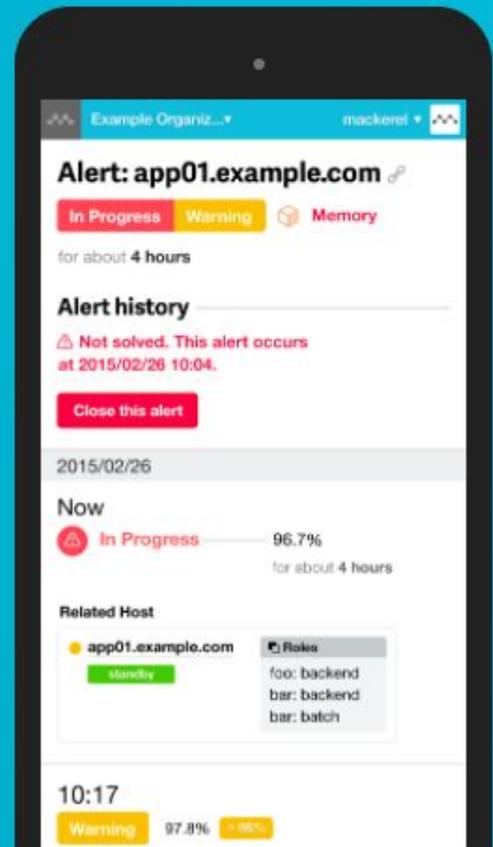
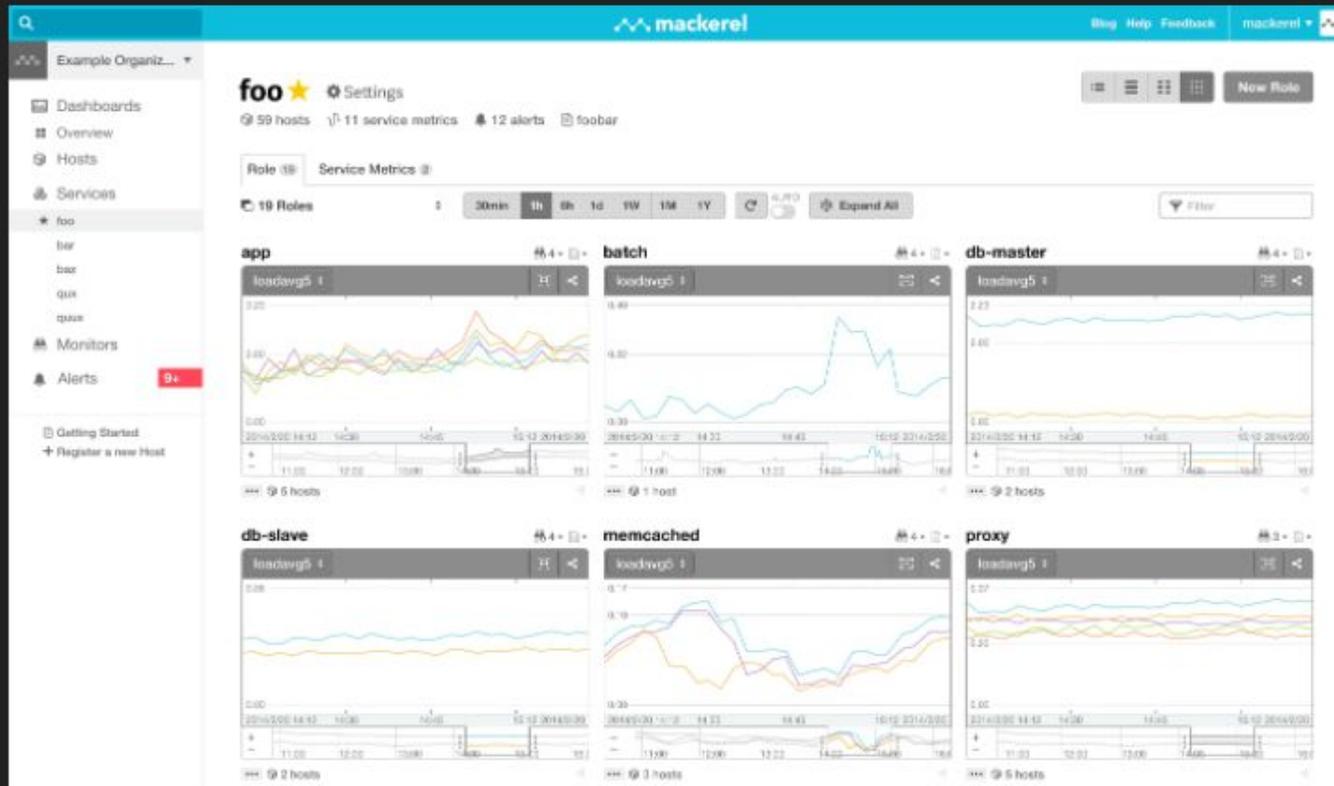
A screenshot of a Speaker Deck presentation slide. The slide has a white background and is framed by a dark grey border. At the top left, it says 'Speaker Deck' with a small green square icon. At the top right, it says 'Published on Oct 17, 2016' with a small square icon. In the top right corner of the slide content, there is a blue bird icon and the word 'free' in cursive. The main text is centered and reads: 'Zabbix から Mackerel へ' in large blue font, 'Mackerel で実現したコストダウン' in smaller blue font, and 'Mackerel Meetup #8 Tokyo' in grey font. At the bottom, there is a dark grey control bar with navigation arrows, a progress bar, and a 'share' button with a Twitter icon.

<https://speakerdeck.com/manabusakai/zabbix-to-mackerel>

- Zabbixを当時使っていた
 - VPCごとにzabbix serverを運用
 - 機能が豊富なので作り込めば色々なことができる
 - しかし作り込みや運用に時間を取れない状況
- いくつかの製品を評価
 - 移行のしやすさ
 - 製品の進化スピード
 - 使いやすさ(UI, API, CLI)
 - コスト
 - AutoScalingとの親和性

エンジニアをワクワクさせる「直感的サーバー監視サービス」

洗練されたグラフ、「役割」の概念、柔軟な通知設定、オートスケールとの親和性、その他革新的な機能 ▶



- **Mackerel**
 - リソースの監視、外形監視など
 - アラート通知
- **NewRelic**
 - アプリケーション内部
- **CloudWatch**
 - autoscalingのトリガーとして使用
 - MackerelのAWS integrationを使ってMackerelに集約
- **Bugsnag**
 - アプリのエラーログ
- **Deep Security as a Service for AWS**
 - セキュリティ監視



Mackerel活用例

AWS EC2のタグ

- Project
 - サービス名
- Role
 - web, worker, batch等のサービス内のサーバの役割
- Stage
 - production, staging,...
- hostname(tagではない)
 - 起動時に勝手につく名前

Mackerel

- Service
 - サービス名_Stage名
- Role
 - web, worker, batch等のサービス内のサーバの役割
- Host
 - そのまま

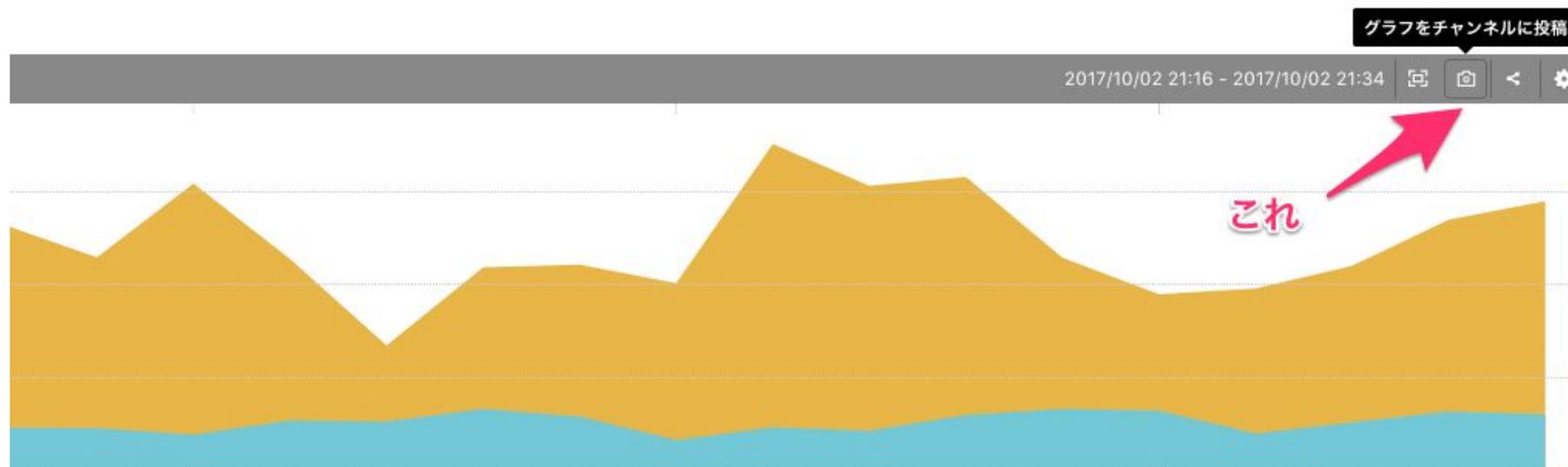
プロビジョニングやデプロイはEC2タグで処理を分けているので、
タグの情報をそのままMackerelへ移植

通常時

- ダッシュボードかサービス一覧のグラフを眺める
 - 定期的にパフォーマンス振り返り会を実施
 - ぽちぽち作るのは面倒なのでmkrコマンドで作る
 - さらに深掘りしたい場合はNewRelicで確認する

何かあったときやグラフをシェアしたいとき

- 「チャンネルにグラフを投稿」が超絶便利



いつデプロイしたかわかるように記録



```
mkr annotations create --title "Deploy application" --from ${timestamp} --to ${timestamp} --service hoge
```

or

```
json_data=$(cat <<EOF
```

```
{  
  "title": "Deploy application",  
  "from": ${timestamp},  
  "to": ${timestamp},  
  "service": "hoge"  
}
```

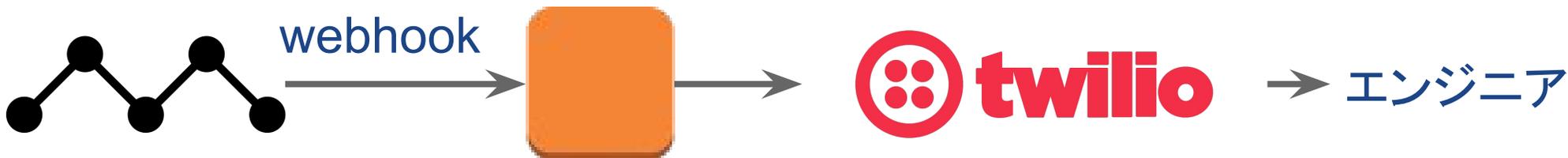
```
EOF
```

```
)
```

```
curl -sS https://mackerel.io/api/v0/graph-annotations -X POST \  
-H "X-API-Key: ${api_key}" -H "Content-Type: application/json" -d "${json_data}"
```

- サービスに紐づくメトリック
 - レスポンスタイム(ALBのCloudWatchから取れるといえれば取れる)
 - 非同期ワーカーの未処理のキュー
 - サーバー台数
- サービスメトリックの放り込み方
 - `/api/v0/services/<serviceName>/tsdb` にPOSTするだけ
 - Lambda経由で放り込む

- 基本的にはslackに通知
 - WarningはSREが見る
 - Criticalは広めに通知
- 夜中のアラート
 - PagerDutyなどは使わずに雑にbotが電話をかけていく
 - slackに誰かが反応したら電話を切る



- mackerel-plugin-linux
- mackerel-plugin-mailq
- mackerel-plugin-multicore
- mackerel-plugin-mysql
- mackerel-plugin-nginx
- あとはAWS integrationで

より細かい情報を見たいときはNewRelicで深掘りしてます

- Host Statusの初期状態はstandby
 - AutoScalingのUserDataが動いている間はアラート出したいくない
 - UserDataの中でmkrを叩いてworkingに戻す
 - 構築がコケた場合も
- 実験的機能
 - とりあえずonにしておく

Host Statusの初期状態

新規ホストのステータスはstandbyです。
[より詳しく](#)

standby



working

実験的機能

実験的に提供される機能を有効にします。





Mackerellに欲しい機能

- 毎月の支払(レシート)をPDFで欲しい
 - 経理に提出する書類を作るのがちょっと面倒。。。
- AWSインテグレーションも自動退役機能が欲しい
 - EC2でないリソースを主にstaging環境で作ったり消したりするので、消すスクリプトを作った
 - タグ・除外タグをサービスごとに設定できると嬉しい



まとめ

- 全く問題なく運用できてます
 - 開発者、CRE、その他関係者に支えられております
- 懇親会で詳細を聞きたいことがありましたら声をかけてください！

*"Take a chance!
All life is a chance.
The man who goes the farthest is
generally the one
who is willing to do and dare."
- Dale Carnegie*

**free
wants
you**





スモールビジネスに携わるすべての人が
創造的な活動にフォーカスできるよう